



きすみの

教育目標『ふるさとからつなぐ 夢の種をまき 花開く来住っ子』
校訓【かしこく やさしく たくましく】

☆デジタル機器とわたしたち☆

「信じる」ためには、根拠や人との関係性が必要になります。相手の立場や気持ちなどを想像して、信じることが生まれてくるのではないかでしょうか。匿名で投稿するSNS(X)などに、違和感はありませんか。匿名とすることにより、批判をし、罵倒し、主張しやすくなっているのではないかでしょうか。匿名は、他人を言葉で傷つけ、追い込み、発信に責任をもつことがありません。物ごとは光をどちら側から当てるかで見え方が大きく変わります。一方向からのスポットでは別の側面に気づきにくいものです。見えていないものを想像することは難しいですが、今、自分が見えているものが他人には全く違うものに見えているかもしれません。公平にみるためにには、見方を意識し、想像することが大切です。

このような想像力を養うには、読書が非常に有効になると考えます。本は情報ではなく、行間から世界が多面的で多層的であることを教えてくれます。

6年生が1学期、国語「デジタル機器と私たち」の学習をし、提案する文章を書きました。一部、掲載します。(裏面もご覧ください)

ネットのウソ広める前に確認する	6年1組
1. 提案のきっかけ	
(1) ニュースを見た時に、調べて分かることによくニュースを見ているとネットのウソが本当のことをだと思いつらさん(こしま)といふ人が(せり)いると見たことはないでありますか? たれども簡単にどうこうできるため誤(よ)り情報(じょうほう)が漏れ(あ)れやすい人(ひと)です。実際に(じじに)ヨコナのウソの情報(じょうほう)がたくさん出(で)ても40%以上上の人が、気づかないが、たえうです。	
(2) 解決したい課題	
ネットのウソの情報を(じょうほう)に気づくと、「え、本当に? みんなに知(し)らせなき」となり自分(わたくし)だけでなく他の人にモウソだと知(し)らせたいと、めいぢよくがかかる、少し(ほんの)この課題(かいたい)を解決(かいけつ)する方法(ほうほう)を提案(てんせん)したいです。	
2. 提案	
簡単(たんかん)だから気(き)をつけよう	
(1) フィルタ(ふるた)でこびせしらこうか簡単に(たんかん)に	

(2) 拡(ひら)さんやウソの情報を(じょうほう)を流さないようにその情報を(じょうほう)は正しいのか、くちしく確認(かくにん)する二点(にてん)を私は提案(てんせん)します。なぜなら、確認(かくにん)せば、ウソの情報を(じょうほう)を見るときに拡(ひら)さんしてしまう、ふるたがあるからです。具体的(具體的)には次の二つを提案(てんせん)します。
(1) よく注意(ちゆうじ)し、何度も確認(かくにん)する。まずは拡(ひら)さんしないように(くらべたり)、よく確認(かくにん)することです。
(2) 自分(わたくし)から誤情報(よじょうほう)を流さないように自分で調べて本当(ほんとう)の話(はなし)か確認(かくにん)してから流します。
このようによく注意(ちゆうじ)や確認(かくにん)、調べました(ひらべました)けで自分が誤情報(よじょうほう)を流したり拡(ひら)さんしないで他の人にもめいぢよくかけなくなるのです。この二つを広め(ひろめ)ていって誤情報(よじょうほう)が、ほとんどなることにつながることを考えました。
3. まとめ
ネットは簡単(たんかん)で、すぐにはどうこうじき、楽しんでしまったが、すぐに誤情報(よじょうほう)を拡(ひら)さんして

ありがとうございます。なまけぐるぐるに広めず、きづくために、発信元が信頼できる情報の原の確認し、一二の小説筋だけではなく複数の情報を得から、情報を集めて再度確認します。インターネットを安全に楽しんで利用するためには、常に情報取り扱いを意識し、うそや偽情報をさぐられないように注意することが重要な①です。



☆文化や自然から学ぶ☆

5年生は、自然学校が始まり、潮風を身体いっぱいに感じながら、対話を弾ませ、自分たちで活動を前へ進めていっています。思いや考えたことを言葉にし、積極的に行動している5年生の姿は頼もしいです。

また、6年生は、もうすぐ修学旅行があります。歴史文化遺産と自然美が調和した奈良公園を市場小学校6年生と活動します。また、6年間学んできた外国語を生かす時でもあります。修学旅行で出会う外国人の人と積極的に話すことに挑戦します。もしかすると、フランス語、ドイツ語、イタリア語…に気づき、ジェスチャーで一生懸命コミュニケーションをとることになるかもしれない緊張感と楽しさ、達成感も味わうことができるでしょう。様々な人、事、物と出会い、気づき、大きく成長する子どもたちをうんと支えたいと思います。

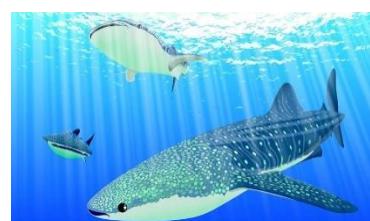
今月は、全学年で社会見学があります。五感で学ぶ内容の深さと広さを子どもたちは、なんとなく気付いています。社会見学の日は、誰もが目を輝かせながら、いつも以上に見聞きし、かつ、その場所の雰囲気を楽しんでいます。



10月の主な行事予定

10月1日(水)～3日(金) 自然学校(5年)	6日(月) 代表委員会
8日(水)～9日(木) 修学旅行(6年)	10日(金) 須磨シーワールド(1・2年)
13日(月) 小野市小学生陸上競技大会	16日(木) 小中一貫出前授業(5・6年) アイマスク福祉体験(4年)
14日(火) 児童朝会・集会 見守り隊下校支援	20日(月) ハートフル弁当 稲刈り(5・6年)
17日(金) クラブ活動	青少年科学館(4年)
23日(木) マルコメ味噌食べ比べ教室(3年)	青少年センターアクティビティ支援
24日(金) クラブ活動	29日(水) 豆腐作り体験(3年) ひまわり公園(1・2年)
26日(日) 北播地区小学生陸上記録会	
27日(月) 歯科保健指導(3年)	
28日(火) キッコーマン校外学習(3年) 見守り隊下校支援	
30日(木) 点字福祉体験(4年)	
31日(金) 委員会 小野南中学校人権フィナーレ(6年)	

※11月1日(土)・2日(日) 小野市学童展:伝統産業会館にて



6年国語「デジタル機器と私たち」

デジタル機器、使いすぎに注意しよう
6年一組
1. 提案のき、かけ
(1) ぼくの体験と、調べて分かったこと
長時間画面ばかり見ていて、目が悪くなるたゞ、感じたことはないだろうか。ぼくは、この経験をしている。インターネットで調べると、視力が人の未満の子もが増えてることが分かった。た。
(2) 解決したい課題
デジタル機器などを使うと、長時間画面を見すぎると、視力が低下してしまう、どんな人でも画面を見ることが多くなって、このと、この課題を解決する方法を提案した。
2. 提案
ルールなどを決め vive あう
どこでも画面を見る時代だからこそ、しっかりルールを決めて見ることをぼくは、提案する。なぜなら画面を見すぎると視力が低

下するからだ。具体的には、三つの提案をする。

(1) 画面を見るときは、使用時間を決めこ、休けいをはさみながら使う。

(2) 画面を見るときは、しせいを正し、画面とのきよりを保ちながら使う。

(3) 画面を見た後など、屋外でさす時間をできるだけ長くする。

このように、ルールなどを決めたけど、視力低下を少しでも防ぐことができるのである。一人一人がこのようなことをすれば、視力が低い子どもが減らすことができるかもしれない。

3.まとめ

デジタル機器などは、おもしろいものがたくさんあり、つい夢中になってしまふことがありがちだ。しかし、そんなときは一度立ち止ま、このルールなどをし、かり決めよう。自分の楽しさをゆうせんして、自分の体を気にしないといけないことはあず本てはならぬと思う。いつもどこでも画面を見えるから、しっかりルールを決めて見ることが大切である。

身の周りにひそむネット依存症
6年1組
1. 提案のき、かけ
(1) 私の体験と、調べて分かったこと
家でインターネットを使って遊んでいるとお母さんに「使いすぎたら依存症になるよ」と言わされた経験がある。インターネットで調べてみると、年々多くの人がネット依存症になってしまっていることが分かった。
また、依存症のせいでの学校を不登校になり、ネットの中でのいじめが起きたりすることがあるというこの課題を解決する方法を提案したい。
(2) 解決したい課題
ネット依存症は、自分の本当の「楽しみ」が見つけられないからだと思う。みんなが気軽にできる楽しみを提案して、多くの人たちがネット依存症にならないようにさせたい。

2. 提案

ネット以外の「楽しみ」を見つけよう

ネットは、すぐにゲームなどができてしまう。それを使いすぎてしまうことで依存症の原因になってしまふと思う。ネットを使わずに、ちがう「楽しみ」を見つけられる方法をしようかいしたい。

(1) 自然で遊ぶこと。自然で遊ぶことで、知らないなか、た楽しむやうれしさが出てくる。

(2) しゃみを見つけよ。ネットよりも楽しいことを見つけすることで、他の楽しさが見つかる。

3. まとめ

ネット以外の「楽しみ」を見つけることで、多くの人たちがネット依存症から避けられる対策方法だと思う。だから一人一人が「楽しみ」を見つけ、だれもがネット依存症にならない世の中をつくっていきたい。

スマートフォンながらスマホに気をつけて

6年1組

1. 提案のきっかけ

(1) 私の体験と調べて分かること

外にいるとき、自転車や車に乗りながらスマートフォンをもっている人を見たことがないだろうか。私は、外にいるときに、自転車に乗ってスマートフォンをもっている人を見たことがある。インターネットで調べてみると、ながらスマホは重大な事故につながるこれが分かった。「ながらスマホ」とは、長い時間、スマートフォンをさうざすることだ。また、ずっと同じ体勢いでさうざすると、動こうとしたときにすぐ動けないときがある。

2. 解決したい課題

ながらスマホをすると、交通事故にあったり身体にもえいきょうするなど、命にもかかわってくる。私たち小学生にもスマートフォンをもっている人が多いからこの課題を解決

する方法を探査したい。

3. 提案

安全な使い方をしよう

スマートフォンは、どこでも使えるからこそ、自分の都合ではなく「安全」に使うという意識をもつことを私は提案する。なぜならスマートフォンを自転車などとさして集中してしまうと、視野がせまくなり、命にかかわるかもしれないからだ。具体的には、次の二つを提案する。

(1) 「ながらスマホ」はしない。同じ体勢で長い時間さうさせず時間を使めてさうさする。

(2) 自転車や車の運転中はさうさせない。どうしても必要なときは止めてからさうざることのように、「安全」に使うことで身体や交通事故にもつながらなく、みんなが安全に生活できる。

まとめ

スマートフォンは、いろんな所でよく立つ。そのため、使う場所を考えずにしまったり夢中になってしまいがちだ。しかし、そんなときは、それは安全が考えることが大切だと考える。使うときは時間を決めて使うならルールを決めて使おう。

